

人工呼吸器ユーザーの新居優太郎くん
高校卒業♪ (4 ページに記事)



2018/11 4年文化祭練習 (右上)
2018/10/28 高校化学コンテスト表彰式 (中)
2019/3/3 卒業式、茶話会 (右下)



- ✎ 言いたい放題! アッキー28号 (32) インフルエンザ再び
- ✎ 今、福島は…子どもたちは… やんちゃっ子 お話を聴く会
- ✎ 4年間の高校生活をふりかえって 卒業後の未来
- ✎ 「うたかた話」(5) 方丈記
- ✎ 今月の五行歌
- ✎ マンガ「明るい自閉症講座」8♪
- ✎ イベント紹介 ✎ 編集局より/LIP配布場所/会計報告

「LIP編集局」 <https://www.love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス: lip@love-dugong.net

TEL: 070-5653-6913 (18時以降)

郵便振替口座 00920-8-120259 (LIP編集局)



1月下旬の日曜日夜。私が所属している文化団体の新年合同会と交流会に参加して帰宅の途中、障害を持つ上の子のショートステイ先の事業所からスマホに電話が入った。

電車の中で電話を取れない。最寄りの駅に到着後電話をかけ直すと、1泊予定で泊りに行った息子が39度の高熱、車でouchに送りますとのこと。早足で帰宅すると、家にいた夫には既に連絡済みで、やがてマスクをつけパジャマの上にジャンパーをはおった息子が事業所の車で帰ってきた。

事業所の人の話では、日中咳やくしゃみをしていたので寝る前熱を測ったら高熱で驚き送ってきたということ。息子は意外と元気そう。お手間を取らせてしまいごめんなさいと重ねて詫びて、車を見送った。

翌日息子は近くのKクリニックで受診。クリニックには、退職後家にいる夫が連れて行ってくれ、私は午前中予定していた文化団体の地元の集まりに参加することができた。集まりの途中で夫から電話があった。「インフルエンザ、A型やったぞ」。うわあ、やっぱり。

事業所で予防接種を受けていたからだろう、息子の症状はそんなに重くない。しかし発症後数日間周囲にうつす危険がある。家族もうつらめよう気をつけねば。食事を自室で1人で食べるのは彼には難しいので、他の家族が食事を終えてから、リビングで食べさせることにした。朝食と昼食の時間は私は仕事で出ているので夫が、夕食は私が、マスクをつけて給仕することにした。

言いたい放題! アッキー28号 (32)

インフルエンザ再び

そうして翌朝私はいつものように仕事に出た。職務規定に「家族がインフルエンザに感染したらマスクを重ねて着用」とあるので、その通りにして勤務。夕方帰宅途中なんだかしんどくなってきた。家に帰り家族の夕食を作ると、自分は食わず、ベッドにダイブ。夜遅く熱を測ると、38度8分だった。これはやばい……。



翌朝職場に断りを入れてKクリニックで受診。インフルエンザA型と診断され、息子と同じ薬を処方された。

それから4日間は「隔離生活」。トイレに行く以外はずっとベッドの中で過ごした。家のことも何もせず、ひたすら布団の中で読まなければならない資料があったので、チェックを入れながら少しずつ読んで、読了した。ためていた新聞を読んだり、脇に運んだ小さなテレビを観てみたり。

食事は、夫が作って運んでくれた。お盆に載せて持ってきてくれる、ベッドで食するなんて、「お姫様みたい!」大げさに喜んで感謝した。

やがて息子は5日間休んだ後、土曜日から通所。私は日曜に家事復帰、月曜日から職場に復帰した。仕事も外出予定もすべてキャンセル、でも周囲の人にうつすことなく、本当によかった。夫には大感謝だ。そうして10年前インフルエンザにかか

った時のことを思い出した。1月末の日曜日の朝、風邪を引いたかとKクリニックを受診すると、インフルエンザA型と判明。自閉症の上の子は中学1年生で、自力登校を模索している最中だった。夫は週末まで出張で帰ってこない。どうしたらいいのかわからず、保健センターに電話したり、支援者に相談したり。その日は息子を1人で下校させたが、ガイドヘルパーを急ぎよ依頼、翌日の下校はヘルパーに付き添ってもらえることになった。それでほっとしたのもつかの間、翌日中学校で学級閉鎖。5時限で下校となったが、ヘルパーが来るまで上の子は学校で待たせてもらった。さらにその日夕方下の子が発熱。夕食を準備して、上の子に食事を出して食べさせている間に、タクシーを呼んで下の子を連れてKクリニックへ。下の子もインフルエンザとわかった。学級閉鎖の上の子と、インフルエンザの私と下の子、翌日から3人で家籠り……。その頃書いていたブログを読むと、「大惨事」の様子が細かに記述されている。インフルエンザになっても、家事に子育て、やってたんだ。今ならとてもできないけれど……。10年間でいろいろ変わったなあ、親は年を取り、子どもはそれなりに成長して……。10年ぶりに我が家にやってきたインフルエンザは、そんな感慨を残してそれ以上被害を広げず去っていった。

(著者プロフィール) パート勤務の主婦。自閉症を持つ成人した息子がいます。市民活動、文化活動にも励んでいます。

今、福島は…子どもたちは… やんちゃっ子 お話を聴く会 森松明希子さんを迎えて 12月1日の報告

2018年12月1日(土) 枚方市立楠葉生涯学習市民センターにて、「今、福島は……子どもたちは……やんちゃっ子 お話を聴く会 森松明希子さんを迎えて」が開催されました。主催は、2012年から保養の取り組みを行っている「やんちゃっ子ひらかた」です。ウクレレ演奏、福島報告、紙芝居とケーナ演奏に続いて、福島県郡山市から大阪に避難された森松明希子さんのお話を聞きました。



歌あり、紙芝居あり、写真パネルの展示あり、の盛り沢山のとても良い集りでした。

紙芝居は、森松さんの「福島原発事故後の様子」を描いたもので、お話そのものは「子どもさんの目線」で作られていたので、森松さんのお話を聴く前に予備知識として、当時の森松親子の不安と避難への決意がとても良く分かりました。

森松明希子さんは、8年前の福島原発事故の後、当時3歳と0歳の二人の子どもさんを連れて、大阪に母子避難された方です。あの日から、福島で働くおつれあいと離れ離れの二重生活を続けておられます。

森松さんは「知って被爆することと、何も知らされずに被爆することとは、全然意味が違う」とおっしゃられ、「被爆を避けて健康を享受することは、基本的人権」という主張のもと、ご本人のことも勿論ですが、全国から「被爆を恐れて避難されている御家族」の原発訴訟のお世話をされています。

避難の権利＝平和のうちに生きる権利、だと、おっしゃられています。なので、避難者だけの問題ではなく、全国民の、全人類に等しくある権利ではないか？と、おっしゃられています。私も、本当にそのとおりだなあと感じます。

また、「隣の家が火事になったとき、私達は、災害からいち早く逃げる」なのに「原発事故での放射能災

害から逃げたら、自己責任、だと責められる」おかしいと思いませんか？とも、おっしゃられました。

この例え話は、実にそのとおり！

そして…、森松さんは「避難は、保養の最たるもの。あの日日本では、国が認めた原子力発電所の事故で日本の空に放射能がばらまかれた、のだから、国の制度として、放射能汚染地域全ての子ども達に保養が保証されても良いはずでは??」と言われ「何の保障もないにも関わらず、保養の活動を続けて下さりありがとうございます」と、やんちゃっ子ひらかたの活動に感謝をしてくださって、何度もお礼を言って下さいました。

子どもさん達も、避難してもう8年が経ち、「福島の子」、と言うより「大阪の子」、でも、原発事故当時「福島」に居たことは事実なので、成長と共に健康被害が出てきやしないか？と不安はつきまとう、との森松さんの言葉に、胸が詰まる思いでした。

避難している人も、福島に残って生活している人も、「平和のうちに生きられる」そんな日が一刻も早く訪れることを心から願った一日でした。

(木村洋子)



*やんちゃっ子ひらかた 保養の取り組み
原発事故によって放射線量の高い地域に住むことになった子どもたちが、放射能の少ない地域に一定期間滞在し、安全な食べ物を食べ、野外で十分に遊ぶことで、免疫力が高まると言われています。
やんちゃっ子ひらかたは、2012年から夏休みと春休みに福島に住む小学生を枚方に招き、保養の取り組みを続けています。今年の春は、3月25日～30日に行われました。

4 年間の高校生活をふりかえって 大学受験にもチャレンジ、卒業後の未来

枚方市在住の優太郎は人工呼吸器を使い、痰の吸引や胃ろうの注入といった、医療的ケアが必要な19歳男子。この春、大阪府立春日丘高校定時制を卒業しました。

ふりかえれば、生後3年間入院して、幼児療育園、支援学校の小学部を経て、地域の中学校に行こう！と決断して、高校受験。唯一のコミュニケーション手段のまばたきで受験をし、2次募集で府立春日丘高校定時制の課程に合格。

定時制高校は受け入れが中学校よりも良く、介助員、看護師に加え、学習支援の先生も付いてくれ、親の付き添いはほとんど求められませんでした。授業は夜間で4時間授業。終わったら21時過ぎて、クラブ活動のある日は下校が22時半という遅い日もありましたが、何回か入院した以外はほぼ休まずに通うことができました。

学校生活の目玉は、行事とクラブ活動です。体育祭はクラスメートに車椅子を押してもらって走り、文化祭はみんなといっしょに展示や模擬店、舞台発表も参加しました。そしてなんといっても校外学習、宿泊学習、修学旅行です。今までは支援学校でも地域の中学校でも親の付き添いを求められ、みんなと別の車で付いて行かされてばかりだったのに、公共交通機関やリフトバスで一緒に行くことができたのです。しかも親は付いて行かずに、先生や看護師さんたちで行って来てくれました。

クラブ活動は科学部に入り、週に2回ほど部室で実験や学会に向けての発表練習などを行い、合宿や学会には関東から九州まで泊りがけで参加し、賞も受賞しました。介護経験のない先生や友達、後輩に手伝ってもらってお風呂にも入ったりもしました。クラブの時間は看護師、介助員が付かず困る時もありましたが、その分部員たちが車椅子を押して移動したり、車に乗せるのを自然に手伝ってくれるようになりました。

そして、最終学年を迎え、クラスの同級生たちも進路のことで動き出し、優太郎も大学進学を目指してオープンキャンパスなどに精力的に出かけまし

た。そこで大学側と受け入れについてや入試の受け方について話を何度もしましたが、どこの大学も受け入れには消極的で、願書を出すまでにも至りませんでした。あとはセンター入試を受けるしか大学に入る望みはなくなり、大学入試センター試験を受験しました。まばたきでの意思確認で受験した生徒は全国初だったみたいです。

センター試験は今までにないくらい本人も頑張ったのですが点数は低く、出願することは断念。大学はあきらめかけていたところ、ある先生から「放送大学」を勧められていたことを思い出して調べてみると、既定の単位を取れば大学の卒業資格ももらえるきちんとした大学だとわかりました。そこで優太郎本人も「やってみる」と意思を表し、配慮の申請と面談を行い、出願しました。入学試験はないので普通は合格になるのですが、様々な配慮のこともあり、入学が認められるか不安はありました。しかし、無事に合格通知が届き、晴れて春から大学生になることができます。

優太郎は先輩たちの影響もあり、自立して親元を離れてヘルパーと一人暮らしをしていきたいという目標があります。いつまでも親と一緒に出掛けたくないそうです。そのために、大学に行っても行かなくても、医療的ケアができるヘルパーを育てて増やす活動をしていきたいとも思っています。その第一歩として、地元枚方で3月初めて喀痰吸引等研修を行い、講師として「重度障害児者の地域生活」というカリキュラムを担当させてもらえました。同じような障害の子どもたちの学校の問題や地域生活での困ったことなどの相談に乗ったり力になればと思います。

障害があるからといって、役に立たないことはないし、障害の人だけで生活する必要もないと思うので、必要な支援を受けながら、ふつうの人たちと同じように、地域で自由に楽しく暮らしていきたいと思います。

文 新居真理

前回は「方丈記」の総括を書きましたが、今回は「方丈記」を詳しく書いてみたいと思います。「方丈記」は前回も書きましたが、全体に短くそして五つの事柄を判りやすく、簡潔に書かれています。その事件と云いますのは、(1) 安元の大火、(2) 治承の竜巻、(3) 福原への遷都、(4) 養和の饑饉、(5) 元暦の地震です。

(1) 安元の大火

鴨長明は書き出して世の無常を「行川の流れは絶えずしてしかも本の水にあらず……」と表して、嘗ては京都に於いても二、三十人居た知人も今では一人二人になってしまったと書かれています。続いて「方丈記」には「予(われ)ものの心を知れりしより、四十(よそじ)余りの春秋を送れる間に、世の不思議を見る事、やや度々になりぬ。去(いんじ) 安元三年(1177) 四月二十八日か」とよ。…で始まる所から安元の大火が始まっています。「戌の時許(ばかり)」と書かれていますから、今で云う午後八時頃ですが(平家物語には亥の刻(午後十時頃)になっています) 都の東南から火が出て西北に広がりました。結果「朱雀門」、「大極殿」、「大学寮」、「民部省」、を灰にしてしまいました。

火元は樋口富小路の舞人の宿で、吹き荒れる風にあふられ、扇を広げた様に燃え広がって行きました。「方丈記」には風にあふられた近くは炎が地に吹き付けられ、炎が1、2丁も飛んで燃え広がったと書かれています。その中の人はあるいは煙にむせんたり、炎につつまれて忽ちに死んでしまったり、身一つで死を免れた人も多くの家財やお宝を持ち出す暇は無く、その多くは灰燼に帰して終いました。公卿の家十六ばかり焼けました。

その他焼失した家屋は時の都の三分の一にも達したそうです。男女の死者は数十人、牛馬の類いに至ってはその数を知る事が出来ないと言われています。家をすぐに立てるにしてもその財貨が無く、皆心を悩ましている様な状態でした。

(2) 治承の竜巻

治承四年(1180) 4月の頃中御門(なかのみかど) 京極のほとりより辻風が起り六条辺りまで吹き荒れる事がありました。竜巻の事は「辻風」と言う表現が使われており、そのもの凄さは大きな家も小さな家も総て破れていない家は無く、平らに倒れているもあり、桁、柱のみ残っているも有る、屋根を葺いていた、「檜皮」や「葺板」は木の葉の様に空に舞い上がって物言う声も聞こえなかったと表現されています。家を修理している内に怪我をする人の数も知れず、風は西南の方向に移っていきましました。辻風は常に吹きますが、この様なのは初めてだ

と書かれています。これを見ますと当時の一般庶民の建物は総て檜皮か、板葺きだったことが判ります。

(3) 福原への遷都

治承四年水無月(六月)の比、にわかになに都遷り侍りき。……で始まる項は平清盛の時に平安京から今の神戸の「福原」に遷都した時の事が書かれています。四百余年を得た都の大臣公卿が悉く西南海の福原に遷ってしまい、家はこぼたれて淀川に浮かび地は目の前に畑となりましたと書かれています。「方丈記」はこの有様を2ページにわたり都のあれ姿を書いています。

(4) 養和(1181)の饑饉

次に書かれていますのは「養和の頃かとか……」で始まる養和の饑饉の事です。「方丈記」に依りますと「二年の間世の中飢渴して」とあります。続いて春夏は日照り秋は大風洪水などが続いて五穀悉くならなかったと書かれています。春には穀物を植えますけれど秋には実らず、民は苦しみ土地を離れ、その結果道ばたには多くの人が倒れ伏し飢え死にする人々が後を経たず、道ばたに取り捨てられていました。仁和寺の隆暁法印という人がその額に「阿」の字を書いてまわりましたが、その数四万二千三百余りとも書かれています。その他

賀茂の河原、白川、西ノ京などを加えるとその数は際限も無く多いと書かれています。昔にもあったと聞いては居るが、その比較のしようも無いと書かれています。

(5) 元暦2年の地震

「方丈記」の同じ頃か」とよ……で始まる項では平家物語にも書かれている7月9日の大地震の事だと思われます。この歳は「壇ノ浦の戦い」で平家が滅びた年ですが、この地震では京都中の寺社の塔柱が一つとして元のままのものは無く、又十日か、二十日してやっと揺れが間遠くなったとも書かれています。

この様に「方丈記」を読んでいますと、当時の都の庶民の姿が彷彿として来ますし、現在の日本の歴史ではこの頃は源平の話のみでこの様に町の姿が書かれていません、之の様な都の姿が我々の知りたい庶民の姿であり、都の姿だと思います。この後の後半は鴨長明が方丈で過ごした姿が記されています。そして最後は「于時(とき) 建暦の二年(けんりゃくのふたとせ) 弥生の晦日ごろ、桑門の連亂、外山の庵にしてこれをしるす」で終わっています。

次回は「徒然草」について書いてみたいと思います。今回は岩波文庫の「方丈記」を利用致しました。

小田川徳男

うたかた話(5) 方丈記

LIPが選ぶ

今月の五行歌

さなぎ

これ以上
悲しまないための

二度目の死

母の中から消えた

愛しい人たち

次々と降車するお客に

「がとございます」を

連発するバスの運転手

「あり」がないやん

心の中で突っ込む私

ちえこ

倭(しず)

春めいて
となりのおじんは
ボウシを止(や)めた
舞い舞いしてた梅の花びらは
その頭にベッチャリ

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会(連絡先: 090-5893-5635)が、月一度、歌会を行っています。その作品の中から、LIP編集局が「気になるうた」を選びました。

明るい自閉症講座(8)

作 くらねこ七機



雑貨&cafe くらねこ 枚方市片鉾東町20-1 あそびに来なね

イベント・サークル・ボランティア情報

～子どもの声を聴ける人になろう～
チャイルドラインボランティア養成講座

■日時：5月19日・26日・6月1日・8日・7月7日の5日連続講座

13時～17時（ただし、7月7日のみ13時～18時半）

※途中休憩あり

■会場：HRCビル4階研修室（大阪市港区波除4-1-37）

■主催者および連絡先：公益社団法人子ども情報研究センター
Tel 06-4708-7087 メール info@kojoken.jp

■参加費用：一般 20,000円（25歳以下 10,000円）
個人正会員 8,000円（25歳以下 4,000円）

チャイルドラインは18歳までの子どもがどんなことでも安心して話すことのできる電話です。全国で約70の民間団体が年間約20万件の電話をボランティアでとっています。ぜひ、私たちと一緒に「子どもの声を聴く」ことを学び、活動しませんか？

*音楽でリフレッシュ！

快い音でゆったりとした楽しい時間を仲間と一緒に思いっきり声を出して心身共にリフレッシュしませんか？

日時：4月7日（日）12：30～14：00

場所：南部生涯学習市民センター 2階音楽室

日時：4月18日（木）14：00～15：30

場所：サンプラザ生涯学習市民センター 5階視聴覚室

参加費：500円（初回無料）

申し込み・問合せ先 音楽でリフレッシュ！ 担当：中嶋

TEL：072-840-5493

無添加石けん商品・手作り作品販売のお知らせ

・バザー 4/17(水)・4/24(水)・5/22(水)

：市役所前の岡東町公園にて 10:30～

・廃油回収 5/21(火)

：枚方市役所前にて 10:30～12:00

障害者労働センター 枚方市中宮山戸町10-12-101

TEL 072-848-0508

ネットショップ URL: <http://paso0508.cart.fc2.com>

「枚方自閉症児(者) 親の会」4月例会

※日時：4月25日（木）10時～12時

※場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム

※連絡先 松崎 072-845-3014

春名 072-397-0053

*【参加者募集】 放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」
情報交換・交流会

子どものこと、学校のこと、高校進学、勉強や、家庭での時間の過ごし方について、気になることはないですか？ 保護者どうし、時には支援者を交えて、おしゃべり情報交換しましょう。2019年度は、奇数月の月曜日に開催予定です。

■月日：5/27、7/1、9/30、11/18、1/27、3/2（奇数月の月曜日）

■時間：10時半～お昼過ぎ

遅刻早退OK、出入り自由です。

■場所：ラポールひらかた

■参加費：無料

問合せ：c-k@love-dugong.net または、

090-5893-5635（16時以降 豊高）

（予定変更の場合もありますので、ご確認願います。）

下記ブログにて、随時情報を掲載しています。

<http://ameblo.jp/challengekids81573/>

（「チャレンジ・キッズ」「アメブロ」で検索してください）

心理カウンセラー養成講座 ～体験講座&説明会～

心のサポート、社会貢献、対人関係の改善など日常生活に役立ちます。

■日時：4月16日（火）10：30～12：00

4月23日（火）10：30～12：00

4月23日（火）19：00～20：30

■場所：ラポールひらかた 研修室2

申込・問合せ先：NPO法人京阪総合カウンセリング

TEL 072-814-7140

メール jimu@npo-ksc.net

<http://www.npo-ksc.net>

参加費：無料

鶴島昭雄さん 3月16日 88歳で永眠されました。

「もぐらの目」2008年5月号から毎回、昭雄さんの挿絵付で隔月掲載開始。

2015年10月号から「鶴島昭雄さんに聞く 戦争の体験」の隔月掲載開始。2018年6月号まで19回掲載。冊子にまとめてLIPから発刊しました。

2018年8月号から「無駄話」という連載を開始したばかりでした。

ご冥福をお祈りいたします。

LIP編集局

LIPは、次の場所に置かせていただいています。

- ★ 各生涯学習市民センター・図書館・メセナひらかた 3F ウィル・ひらかたNPOセンター
 - ★ 枚方市ボランティアセンター [ラポールひらかた内 072-841-0181]
 - ★ 子ども家庭支援センター ファミリーポートひらかた [枚方市市役所南門 2-50-1 072-850-4400]
 - ★ コミュニティーカフェ ラテール [枚方市西雲野 1-3-27 雲野口バス停前 072-848-0418]
 - ★ NPO法人 りりあん [枚方市長尾元町 6-39-15 Irian@kat.zaq.ne.jp]
 - ★ 婦人洋品店 シヤルム [枚方市南楠葉 1丁目 2-16 ぐずは公民館向かい 072-850-1362]
 - ★ 喫茶 Dik Dik [枚方市岡本町 8-17 072-846-5377]
 - ★ 街かどデザインハウス 藤阪愛逢 [枚方市藤阪元町 2-27-1 072-855-6978]
 - ★ 枚方市地域包括支援センター社協こもれび [枚方市南楠葉 1-30-1 エクセレントビル 203 号室 072-856-9177]
 - ★ 泉屋 楠葉店 [枚方市楠葉並木 2-2-2 072-868-3060]
 - ★ WAVE34(ボウリング場) [枚方市田口 4-11-8 072-848-0450]
 - ★ 身体障害者共同作業所 キッズ枚方コミュニケーションズ [枚方市堤町 2-1-103 072-861-6360]
 - ★ 大阪総合会計事務所 [枚方市西雲野 2-4-17 第5松葉ビル 301 072-805-5252]
 - ★ ヘアースタジオぱべぼ [枚方市南楠葉 2丁目 4-3 072-850-9070]
 - ★ 枚方市役所(市民活動課・環境総務課・人権政策室) [枚方市大垣内町 2丁目 1-20 072-841-1221]
 - ★ 枚方市役所 津田支所 [枚方市津田北町 2-25-1 072-858-1502]
 - ★ (財)枚方市文化国際振興財団 [枚方市岡東町 8-33 市民会館内 072-843-1122]
 - ★ 枚方市総合福祉センター [枚方市津田東町 2-26-1 072-858-5835]
 - ★ (社)福やなぎの里 精神障害者通所授産施設 ばびるす [枚方市大字尊延寺 2200 072-859-0245]
 - ★ NPO法人パーソナルサポートひらかた [枚方市中宮山戸町 10-12-105 072-848-8825]
 - ★ 自閉症療育センター Link [枚方市岡東町 24-10 アイエス枚方ビル3階 072-841-2411]
 - ★ 「市民の広場」ひこばえ [枚方市大垣内町 2-8-27 シンエービル別館A室 072-846-8780]
 - ★ 紅茶専門店VIE [枚方市南楠葉 1-1-34 072-856-2355]
 - ★ shot bar カボチャソース [枚方市牧野下島町 14-22 072-809-7676]
 - ★ ポパイ商店 [枚方市山之上2丁目 16-9 072-846-7232]
 - ★ えほんのお部屋ひまわり畑 [枚方市香里ヶ丘 12丁目 6-28 090-6739-7064]
 - ★ クッキー工房おれんじはうす [枚方市交北3丁目 3-10 072-856-8378]
 - ★ 陶器器のお店 a new sprout [枚方市堤町 2-14 072-846-9550]
 - ★ 雑貨/カフェ ルボ・デ・ミディ [枚方市堤町 10-12 072-843-1525]
 - ★ 渦潮ベーカリー楠葉店 [枚方市町楠葉 1-30-6 072-856-5420]
 - ★ 輝きプラザ「きらら」 [枚方市車塚 1-1-1]
 - ★ 教育文化センター [枚方市磯島北町 37-1 050-7102-3150]
 - ★ 三代目くちゃん ピーコ [枚方市牧野阪2丁目 7-30 080-3785-1728]
 - ★ MIKIHOUSE キャラメル [枚方市牧野阪 2-9-15-105 072-857-6626]
 - ★ 株式会社 丸天酒店 [枚方市牧野阪 2-5-23 0120-39-7003]
 - ★ MogaJogaDining 枚方宿 [枚方市堤町 2-15 072-846-3535]
 - ★ カフェレストラン 風鈴火山 [枚方市牧野阪 2-5-19 072-856-3799]
 - ★ とくふうホーム [枚方市大字尊延寺 4592-24 072-858-4058]
 - ★ 音楽療法スペース ウッドヴィレッジ [枚方市牧野下島町 9-12 070-857-3540]
 - ★ みんなでつくる広場「ちよこつ」 [枚方市楠葉野田 2-30-8 072-856-9439]
 - ★ スパイレイ枚方南 [枚方市津田山手 1丁目 24-1 072-808-4126]
 - ★ やすらぎの丘霊苑 [枚方市大字尊延寺 4588 番 4 072-896-1212]
 - ★ 蒔のいえ [枚方市甲斐田町 15番 25号ウエストヒルズ102号 072-805-2660]
 - ★ ちよこつまきえん みんなの里 [枚方市楠葉並木 2-28-4 072-845-6814]
 - ★ 韓国茶が楽しめるカフェ「Cafe Cajjo」 [西雲野 1-6-28 072-848-8481]
 - ★ ぐずはアートギャラリー [枚方市楠葉花園町 15-1-2302 本館ハナノモール 3階]
 - ★ カフェル ボン [枚方市高田2丁目 20-17 072-396-8785]
 - ★ 街かどデザインハウス秋桜 [枚方市宗谷 1-1-1 072-859-3991]
 - ★ 明日花障害者作業所 [枚方市西雲野 1丁目 3-18 072-848-2324]
 - ★ 陽だまりの会 [枚方市交北 2丁目 7-15 072-809-0015]
 - ★ Lin Brun. [枚方市牧野下島町 18-7 072-865-3514]
 - ★ カミユウ [枚方市牧野下島町 13-11 072-865-7310]
 - ★ Grand Table [枚方市山之上 1丁目 12-10 072-846-3808]
 - ★ 尊延寺公民館 [枚方市尊延寺 3丁目 3-16 072-859-0168]
 - ★ ひねもすばんのかふえ [枚方市堤町 10-24 鍵屋別館 1階 090-5963-0590]
 - ★ まこと豆腐 燈 本店 [枚方市楠葉中町 1-5 072-855-6022]
 - ★ 雑貨&cafe ぐろねこくら [枚方市片鉾東町 20-1 072-896-9690]
 - ★ 京阪総合カウンセリング [枚方市新町 2-1-9 ぼーむ 21 新町 106 号 072-814-7140]
- ◇ ◇ ◇ ◇ ◇
- ★ フレッシュベーカーリー ラッキー [寝屋川市早子町 18-1 072-821-0413]
 - ★ 小規模通所授産施設 ミルキーウェイ [交野市天野ヶ原町 2丁目 14-20]
 - ★ 青年の家 [交野市私部 2丁目 29-1 072-892-7721]
 - ★ 大阪市総合生涯学習センター [大阪市北区梅田 1-2-2-500 大阪駅前第2ビル 5階 06-6345-5000]
 - ★ 「月桃の花」歌舞団 十三スタジオ [大阪市淀川区木川西 3-4-20 2F 06-6885-8475]
 - ★ ふらっとねやかわ [寝屋川市東大和町 2-14(市立産業振興センター)5階 072-800-5789]
 - ★ ふれあいプラザ香里 [寝屋川市香里南之町 19-17 フレスト香里園4階 072-835-3335]
 - ★ 交野市役所内ネットワーク [交野市私部 1丁目 1-1]
 - ★ Cut wa Coconi [交野市楠葉 55-13 072-893-0020]
 - ★ ヘアサロンおおまち [交野市私部 3-17-2 072-891-5024(予約優先)]
 - ★ 和食「ふる里」 [三重県伊賀市長田 2541-1 0595-21-4498]
 - ★ 大阪府衛生会附属診療所 [高槻市奈佐原 955 072-696-3351]
 - ★ 西宮男女共同参画センター ウェーブ [西宮市高松町 4-8 0798-64-9495]
 - ★ 大東市生涯学習センター アクロス [大東市末広町 1-301 072-869-6505]
 - ★ フェルデンハウス北斗星 [寝屋川市萱島東1丁目 16-15 070-5435-1965]
 - ★ 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター) [大阪府中央区大手前 1丁目 3-49 06-6910-8500]

応援ありがとうございます♪

L I P 応援団

山田光一さん

L I P 会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
23,581	前号から繰り越し
1,000	応援団寄付
▼560	郵送代
▼500	3月ロッカー代
▼4,120	3月号印刷代
19,401	計(次号へ繰り越し)

■わたしの実家は岐阜県。しかし、隣接した各務原(かかみがはら)にキャンプ岐阜という名の米軍基地があったのはつい最近まで知らなかった。

もともと旧日本軍の飛行場があり、基地の町だったらしい。現在も、自衛隊の航空基地があり、周辺には関連工場など多数あり、軍事の町だということは知っていた。

ここを戦後、米軍が接收し、朝鮮戦争時には1万2千人の米海兵隊基地となったという。米軍兵士による窃盗・ひき逃げ、女性に対する性犯罪も多発した。いまの沖縄と同じような状況だ。地域ぐるみの反基地運動もありあがり、1958年には海兵隊は立ち退きに追い込まれた。その海兵隊が、沖縄へ行ったのだという。

いま、《キャンプ岐阜》で検索すると、キャンプ場がいっぱい出てくる。グーグル検索では、米軍基地のことはまったくヒットしなかった。《キャンプ岐阜 米軍》と言葉を足してやると、やっとヒットしてくる。それほど、キャンプ岐阜のことは忘れ去られているということか。沖縄の人たちの意思をまったく無視して進む新基地建設に、心が痛みます。(w)

■L I Pは市民が伝えたいことを書き、市民が印刷し、市民が配布する地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか？

「枚方市民にだけ」
読んでほしい情報サイト

枚方つーしん

検索

イラスト 表紙：平井由恵、P.2：よし美